

問1 (1) (a) 紙 (b) 新聞 (2) (a) 火 (b) 火事 (3) (a) 余地 (b) 部屋 (4) (a) おじさんのもの[本]
(b) おじさんの家

- (1) (a) 数えられない paper : 紙、紙幣 (b) 数えられる paper : 新聞 研究論文、試験問題
(2) (a) 数えられない fire : 火 射撃 (b) 数えられる fire : (料理・暖房用の) 火 火事
(3) (a) 数えられない room : 空間 余地 (b) 数えられる room : 部屋
(4) (a) =uncle's book (b) =uncle's house

※名詞を調べるときは数えられる名詞なのか数えられない名詞なのかをチェックしよう。

辞書の調べ方は [C] と表示されていれば可算名詞、[U] と表示されていれば不可算名詞なので複数形にはできない。

多くの英和辞書では 1 [U] ガラス 2 [C] グラス、コップと表示されているが、これは「ガラス」という意味のときは不可算名詞、「グラス」という意味のときは可算名詞であることを示している。[C] [U] の表示がないときはたいてい可算名詞である。

名詞は主語、補語、目的語になることができる。これらは文の要素という。

問2 1. 形容詞節 2. 名詞節 3. 副詞節 4. 名詞節 5. 副詞節

1. は、who 以下が girl を修飾している。関係代名詞を含んだ文。別名関係詞節は形容詞の役割をする。いわば主語動詞を含んだ長い形容詞なのだ。

2. は、動詞 wonder の目的語。wonder は他動詞。目的語を必要とする。目的語は単語とは限らない。

3. は、She was sleeping を修飾する副詞節。～とき・・・。

※同じ when でも、I don't know when he starts. は名詞節。

4. は、動詞 know の目的語。know は他動詞。～かどうか・・・。

5. は、go on a picnic を修飾する副詞節。もし～たら。これらの問題を解くには、まず名詞、形容詞、副詞がどんな役割があるのかを知らなければならない。名詞形容詞副詞は 3 大品詞と呼ばれ、非常に重要。同じ単語でも使い方が異なると意味も違ってくる。

問3 1. an, x 2. a, the 3. a, the 4. the 5. the, the 6. x, the 7. x 8. a, x

1. 1 時間は an hour。乗り物の手段は the をつけない。

2. in a hurry は慣用句。始発列車は最初の列車なので the

3. in a sense は慣用句 始まりは 1 つだから the

4. 構文 touch 人 + on the + 体の部位

5. the + 形容詞は形容詞 people

6. チーズは数えられない名詞。特定のチーズでもない。by the + 単位

7. go to church は建物や場所が本来の目的を表す場合。

8. セットになっているもの。

※基本的には a も the も根っこは いっしょ。「1 つ」を表す。違いはたくさんある中の 1 つか、唯一 1 つかの違い。慣用句として使われているものは覚えるしかない。そのほかにも用法があるから覚えよう。

問4 my friend は、すでに話題にのぼったかその場の状況でわかる特定の友人を意味し、a friend of mine は私の (持っている複数の) 友人のうちの一人という意味。

a や the や my などを限定詞というが、これらは 2 つ並べることができない。つまり、a my friend とは言えない。

of は「～の中の」を意味する。だから最初から友達が一人居かない人は my friend となる。

This is my friend Jim, He's a friend of Jill's.

こちらは私の友人のジムです。ジムはジルの友人です。

問5 ①は、We ②～⑤はすべて it

①漠然の We。この場合は自分と同地域の人々。②天候 ③距離 ④時間 ⑤明暗

it は他にもさまざまな使い方があるので要チェック。構文との組み合わせで出題されるものもある。

問6 (1) one (2) it

one は不特定のを指し、it は特定のを指します。つまり(1)はone = a camera を意味し、(2)は it = my camera を意味しているということ。

問7 (1)Some (2)any (3)Any (4)some

some も any も数えられる名詞にも数えられない名詞にも用いられ、漠然とした数(複数扱い)・量(単数扱い)を表す。原則として、some は肯定文、any は否定文、疑問文、感嘆文、条件文に用いられる。

※肯定文のanyは「どんな～でも」という意味

some の疑問文・否定文での用法：疑問文でも、肯定的な(十分ありうると考えられる)気持ちが強いつきや、人にすすめるときはsomeを用いる。また、否定文の主語になるときはsomeを用いる。

Shall we buy some coffee?

Some boys didn't sing the song. ここに解説

問8 1. all 2. All of us 3. All

1. all は単独で「すべてのもの」「すべての人々」「万事、万物」の意味では単数扱い、「全員」の意味では複数扱い。

All were silent in the classroom. (教室では全員が黙っていた。)

2. all of + 代名詞 「～のうちすべての人々(こと)」

代名詞+allでも同じ意味になる。

We were all against the plan. (私たちはみな計画に反対だった。)

※ 述語動詞が一般動詞の場合は、代名詞+all+動詞の順になる

We all went to church. (私たちはみんな教会へ行った。)

3. all [of] + 名詞「すべての～」

all + 数えられる名詞・・・複数扱い

all + 数えられない名詞・・・単数扱い

All [of] these books are mine. (この本は全部私のものだ。)

All [of] the money was lost. (そのお金はすべて失われた。)

All men are created equal. (人間はみな平等に創られている。)

問9 (1) others (2) another

other も another も代名詞と形容詞の用法がある。other の代名詞用法はothers, the other, the others の3つの形を取る。

1. others = <other + 名詞> : 他人、他のもの

① Some birds sing; others don't.

さえずる鳥もあれば、そうでない鳥もある。

2. the other, the others : [残りの人(もの)]

※ the other は「2つのうちの残りの1つ」で単数扱い、

the others は「それ以外のすべて」で複数扱い。

① I have two sisters: one is a nurse and the other is a doctor.

私には2人の姉がいます。1人は看護婦で、もう1人は医師です。

② Some students come by bus, the others come by bicycle.

生徒たちの何人かはバスで来るが、残りは自転車で来る。

③ He has three sons: one is single and the others are married.

彼には3人の息子がいる。1人は独身で他の2人は結婚している。

3. another : 「別のもの(人), もう1つの～」

① How about another cup?

もう1杯いかがですか。

② It's another hot day.

また暑い日だ。

③ Three days have passed. We'll have to wait another three days.

3日経った。私たちはもう3日待たなければならなかった。

問10 1. am 2. are 3. are 4. is

主語が I (一人称・単数)→am

主語が you (二人称・単数)または複数→are

主語が三人称・単数→is

※ 3人称・単数とはHe She Itと単数名詞(人名含む)のこと
では3人称・複数とは? Theyと複数名詞(人名含む)のこと。

1. は決まり文句みたいなもの。
2. は I があるからといってamとしないように。
3. はchildrenが複数名詞だということを知らないと言えられない。
4. はSmithは人の名前。人の名前はis(was)。複数ならare(were)。

問11 1. has 2. studies 3. live

動詞の3人称の作り方に関する問題。

1. 「持っている」はhaveだが、3人称単数現在のルールからhasとなる。
2. 「勉強している」は一見「している」が付いているからstudyingとしそうだが、every dayがあるので、日常の習慣を表す。日常の習慣は現在形で表す。
3. 「住んでいる」は動作ではなく、状態を表すので進行形にはできない。

※3単現の-s,-esのつけ方。

1. 語尾にsをつける[eで終わる動詞]:

makes,takes,comesなど

2. 語尾にesをつける[s,sh,ch,xで終わる動詞]:

washes,finishes,catches,など

3. 語尾にesをつける[子音字+oで終わる動詞]:goes

4. 語尾がiesになる[子音字+yで終わる動詞]yをiに変えて:

studies,suppliesなど

※ 母音字+yはそのままsをつける:stays,saysなど

hasは不規則変化形なので、覚えましょう

問12 1. has 2. studies 3. live

動詞の3人称の作り方に関する問題。

1. 「持っている」はhaveだが、3人称単数現在のルールからhasとなる。
2. 「勉強している」は一見「している」が付いているからstudyingとしそうだが、every dayがあるので、日常の習慣を表す。日常の習慣は現在形で表す。
3. 「住んでいる」は動作ではなく、状態を表すので進行形にはできない。

※3単現の-s,-esのつけ方。

1. 語尾にsをつける[eで終わる動詞]:

makes,takes,comesなど

2. 語尾にesをつける[s,sh,ch,xで終わる動詞]:

washes,finishes,catches,など

3. 語尾にesをつける[子音字+oで終わる動詞]:goes

4. 語尾がiesになる[子音字+yで終わる動詞]yをiに変えて:

studies,suppliesなど

※ 母音字+yはそのままsをつける:stays,saysなど

hasは不規則変化形なので、覚えましょう

問13 (1)was (2)studied (3)sent

be動詞の過去形は主語がIと3人称のときはwas,youまたは複数名詞のときはwereを用いる。過去の文では次のような語句が付くことが多い。

yesterday(昨日) last~(この前の~) ~ago(~前) then(その時)

at that time(その時)など

※ 過去形には規則的な変化をするものと不規則な変化をするものがあるので要チェック。

ここに解説

問14 (1)否定文 weren't 疑問文 Were (2)否定文 didn't 疑問文 Did

(1)be動詞の否定文はwas wereの後にnotをおき主語+was(were)+not~の形になる。短縮形はwasn't weren'tもよく用いる。

疑問文はWas(Were)+主語~?となる。

(2)一般動詞の否定文・疑問文は主語の人称に関係なく次のようになる。

否定文:主語+did not(didn't)+動詞の原形~

疑問文:Did+主語+動詞の原形~?

答え方はYes,主語 did./No,主語 didn't.

※動詞そのものは原形になることがポイントここに解説

問15 (1) (b)、 (2) (b)

これは自動詞と他動詞についての問題。動詞には大きく分けて2種類ある。

それが自動詞と他動詞。

自動詞とは直後に目的語を取らない(前置詞などが続く)。

他動詞とは直後に目的語を取る(つまり名詞が来る)。

通例多くの動詞は自動詞と他動詞の両方の機能を備えているが、受験で問われるのは(自)のみの動詞、(他)のみの動詞で混同しやすい動詞や(他)のみの機能しかない動詞である。

※ 注意すべき自動詞・他動詞

lie(横たわる)と lay(を横たえる)

rise(上がる)と raise (上げる)

sit (座る)と seat(を座らせる)など過去形、過去分詞形も抑えること。